

GAPへの取組推進

～ 持続可能な農業経営を目指して ～

対象：芦別市農業者

1 活動の背景

対象地区芦別市では問題が山積

法人経営体が多くなり、経営規模が大型化

雇用労働者(非農家)の増加

離農の増加により農家数減少

農作業事故の発生

販売戦略・販路が不十分

問題解決のために

無駄が多くリスクの大きい農業経営を改善するための手法が必要



GAPを取組む

(東京オリンピックの食材調達やSDGsで注目)

～GAPとは～

Good Agricultural Practices(農業生産工程管理手法)

- 食品・農作業事故などを起こさせない「**予防型の取組**」
- 安心・安全な**農産物の生産、**持続可能な**農業経営が可能
- 消費者・業者の**信頼を確保し販路を確保**
- 「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献



GAPの取組パターン

より良い経営のため「GAPをする」
(すべての農業者に)

販売戦略として
第三者による認証を取得
(必要とする農業者に)

2 活動の経過

本所主査及び関係機関(農協、市役所)とともに活動

平成30年～ 芦別市きらきらぼし生産組合GAP部会(4戸)
JGAP団体認証取得支援(農場改善提案)
PR活動支援(マスコミ掲載等)
認証維持 支援

令和2年～ 北海道GAP実践モデル事業
S、M農場のGAPをする支援

令和3年～ (有)K農場 JGAP個別認証取得支援
GLOBALG.A.P. 認証取得支援

令和4年～ (同)M農場(後継者、配偶者)、
若手農業者の支援



平成30年 農場巡回の様子



令和3年 農場巡回の様子

3 成果の具体的内容

芦別では普及センターの支援により確実に「GAP」が広まっている

GAPの認証取得

芦別市きらきらぼし生産組合
GAP部会がJGAP団体認証を取得
(令和2年3月)、認証を継続中



○個々の農場において、整理整頓、在庫管理、作業記録も行われ、無駄の少ない経営が実現されている。

- リスク評価が綿密に行われ、事故を未然に防いでいる。
- 農場の見える化が行われ、経営移譲がスムーズになった。
- 産地として、信頼の礎となっている。

(有) K農場でのJGAP認証の取得
(令和3年8月)
認証を継続中



- 従業員(非農家出身)に対する教育の一助になっている。
- 情報共有による作業の効率化
- 今後は酒米の有利販売に向けてGLOBALG.A.P.認証取得に向けて準備している。



GAPをする

S農場(GAP実践モデル事業)



納屋の整理・整頓



交差汚染のリスクを配慮した配置

(同) M農場と若手農業者



GAPの基礎講習会



GAP認証農場視察



GAP観点からの栽培管理

整理整頓によりリスク回避につながり、雇用労働者でも働きやすい環境の農場づくりが行われている

持続可能で効率的な農業経営の確立

4 今後の課題と対応

- ・ GAP認証による販売効果の確認
- ・ 「GAPをする」の促進
- ・ 「GAPをする」場合の目標設定

